

平成 22 年 2 月 2 日

各 位

会社名 エムケー精工株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 丸山 永樹  
 (JASDAQ・コード 5906)  
 問合せ先  
 役職・氏名 取締役管理本部長 小林 文彦  
 電 話 026-272-0601 (代表)

平成 22 年 3 月期 業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 5 月 7 日に公表した業績予想ならびに配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 3 月期通期業績予想の修正

(1) 連結 (平成 21 年 3 月 21 日～平成 22 年 3 月 20 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	20,500	650	450	320	22 円 06 銭
今回発表予想 (B)	18,200	300	100	50	3 円 45 銭
増減額 (B - A)	△2,300	△350	△350	△270	—
増減率	△11.2%	△53.8%	△77.8%	△84.4%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	18,890	150	53	△801	△55 円 22 銭

(2) 個別 (平成 21 年 3 月 21 日～平成 22 年 3 月 20 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	一株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	18,000	610	410	300	20 円 68 銭
今回発表予想 (B)	16,200	180	120	40	2 円 76 銭
増減額 (B - A)	△1,800	△430	△290	△260	—
増減率	△10.0%	△70.5%	△70.7%	△86.7%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	17,142	185	220	△591	△40 円 74 銭

## 2. 修正の理由

### (1) 連結業績予想

最近のわが国経済状況は、一部企業には持ち直しの動きが出てきていることも伝えられておりますが、全体的には依然として昨年来の経済不況を脱しきれず、停滞感の漂う底這い状態が続いております。

当社グループ関連業界の多くも同様の引き続き厳しい環境下にあります。販売の伸び悩みという形で大きな影響を受けることとなりました。

第3四半期までは、対前年比5.3%減と販売が伸び悩み、当連結会計年度末に向けましても、販売の低迷がにわかに解消される兆候は感じられません。第4四半期におきましても、主力の洗車機についての設備投資意欲の減退や、生活機器事業についての個人消費の落ち込みの影響が続くものと思われまます。

また、伸張を期待しておりましたLED表示機は、官需などの販売ルートにおいて投資の見直し・先送りが目立ち、当初は当連結会計年度末に販売を予定していた案件が次年度にずれ込むなど増販が難しく、前年度売上と対比して横這いを見込んでおります。

以上のことから、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益について修正することといたしました。

### (2) 個別業績予想

当通期個別業績予想におきましても、主として上記に記載した要因により業績予想を修正します。

## 3. 配当予想修正

### (1) 修正の内容

基準日	第2四半期末	期末	合計
前回予想（平成21年5月7日）	—	10円00銭	10円00銭
今回修正予想	—	5円00銭	5円00銭
当期実績	—	—	—
前期（平成21年3月期）実績	—	10円00銭	10円00銭

### (2) 修正の理由

当社は株主への利益還元を経営の重要な政策と認識し、中長期の事業展開を念頭に財務体質のための内部留保とのバランスを考慮した安定配当を実施することを基本方針としております。

しかし、今回、当期業績予想を修正したこと、又、今後の経済状況の動向が不透明であるなどを鑑み、業績に即した利益配分を行なうため、1株当たり10円から5円に修正いたしました。

※上記の業績予想の数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値とは異なる場合があります。

以上